



令和5年度 木津川市決算のあらまし (木津川市の家計簿)



もくじ

はじめに	1
令和5年度 木津川市決算一覧	1
木津川市の収入状況	2
木津川市の支出状況	3
基金(=貯金)の残高	4
市債(=借金)の残高	5
健全化判断比率の状況	6
その他の財政指標	7
令和5年度の主な事業	9
都市計画税に関する事業	16
木津川市ふるさと寄附金	17
木津川市の家計簿	巻末

木津川市市民まつり2023（令和5年10月）

木津川市の
財政状況を
わかりやすく
解説します。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



木津川市マスコットキャラクター
いづみ姫

はじめに

地方公共団体は、市民の皆さんから納めていただいた税金などを財源として、いろいろな事務・事業（仕事）を行っています。

年度の始まる前に仕事の計画とそれに必要な経費や財源について、1年間の収支計画である「予算」を作成し、年度が終わった後に、予算で決められたお金の使い道に沿って、実際にどのようにお金が使われたか法律に基づき明らかにしなければなりません。このような1年間の収入と支出の実績を「決算」といいます。

木津川市では、市民の皆さんから納めていただいた税金がどのように使われているのか、木津川市の財政がどのような状況にあるのかを知っていただくために、「木津川市決算のあらまし（木津川市の家計簿）」を作成しています。

令和5年度 木津川市決算一覧

● 3種類のおサイフ（会計）

木津川市のおサイフ（会計）は、わかりやすい会計を行うために、一般会計のほかに特別会計と公営企業会計に分かれています。このおサイフごとにそれぞれ1年間の収入と支出の計画である「予算」をたてて事務・事業を行っています。この冊子では、一般会計の決算を中心に説明します。



（単位：万円）

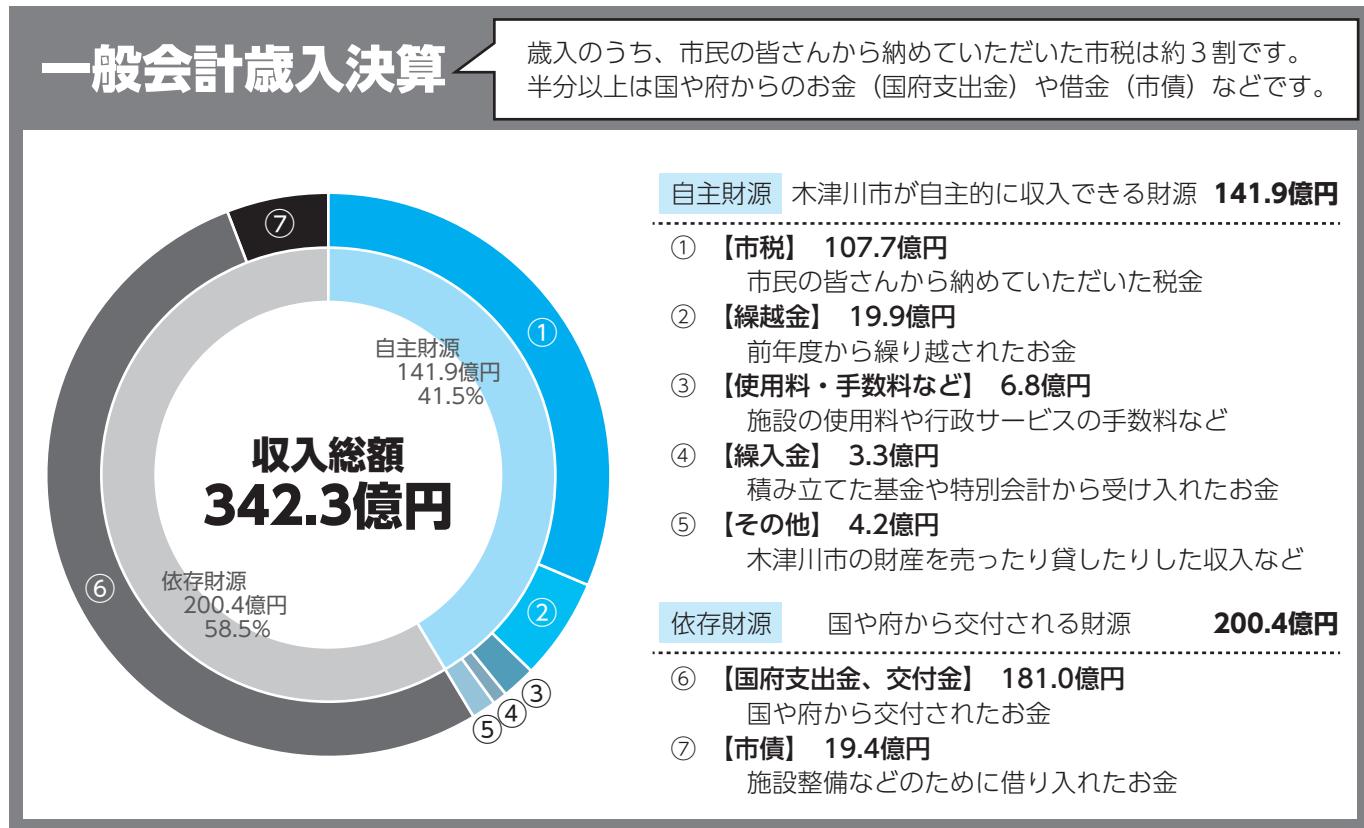
会計別		歳入	歳出	差引額	
一般会計		3,423,294	3,271,579	151,715	
特別会計	国民健康保険特別会計	692,842	680,816	12,025	
	後期高齢者医療特別会計	127,505	126,285	1,221	
	介護保険特別会計	597,650	590,440	7,210	
	旧北村旧兎並村旧里村財産区特別会計	4,857	4,837	21	
	旧加茂町財産区特別会計	309	281	28	
	旧瓶原村財産区特別会計	1,160	1,140	20	
	旧当尾村財産区特別会計	320	289	30	
	旧木津町準財産区特別会計	2,094	2,094	0	
公営企業会計	水道事業会計	収益的収支(税込み) 資本的収支(税込み)	189,379 10,134	186,086 37,829	3,292 △ 27,694
	公共下水道事業会計	収益的収支(税込み) 資本的収支(税込み)	240,504 82,417	237,615 126,374	2,888 △ 43,958
合計		5,372,465	5,265,667	106,798	

※水道事業会計および公共下水道事業会計の収支不足分については、内部留保資金等で補てんしています。

端数処理のため、合計と差引額が一致しない場合があります。

木津川市の収入状況

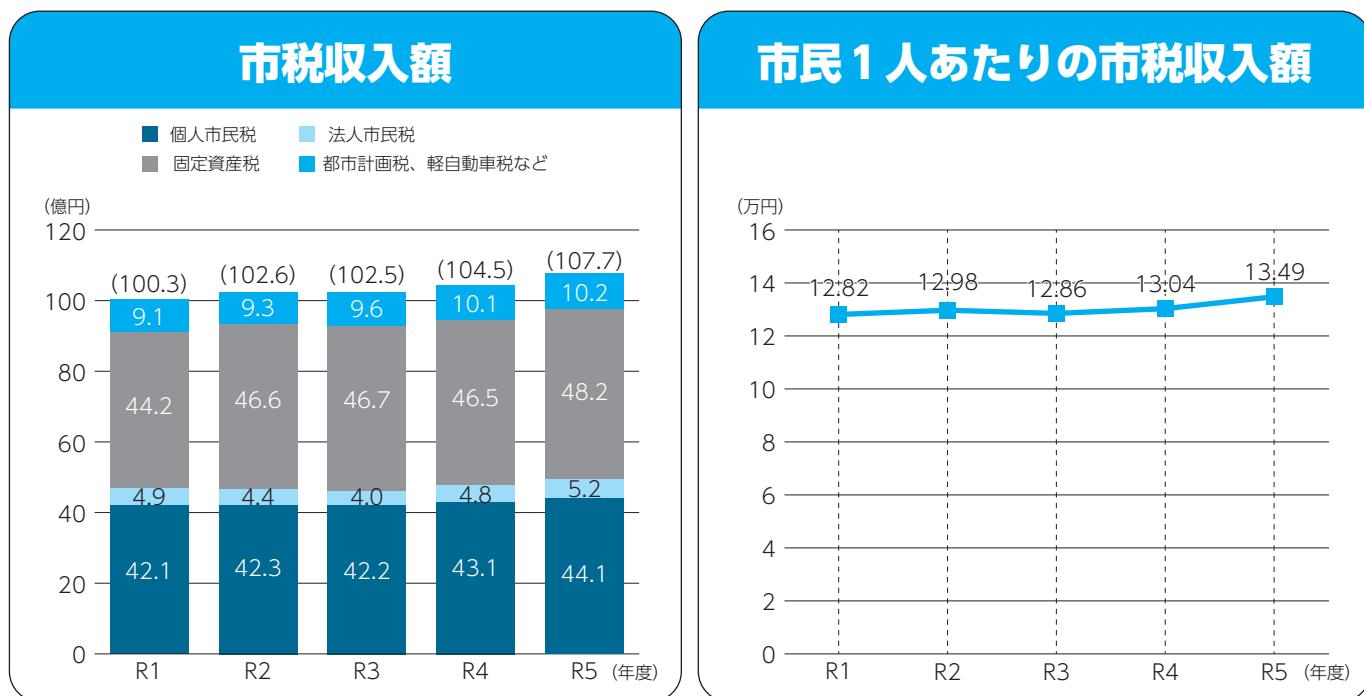
「木津川市の収入にはどのようなものがあるのか」という視点で、令和5年度の一般会計決算から収入の状況を紹介します。



※「国府支出金、交付金」の中には、皆さんにお買い物されたときに支払う消費税のうち、地方消費税分16億6,699万円の交付金があります。この交付金のうち税率引上げ分10億2,028万円は、すべて児童福祉や健康増進などの社会保障施策のために使いました。

●市税の中身

土地や家屋にかかる固定資産税と個人市民税の割合が大きく、あわせて約9割を占めています。また市民1人あたりの市税収入は約13.5万円となっています。



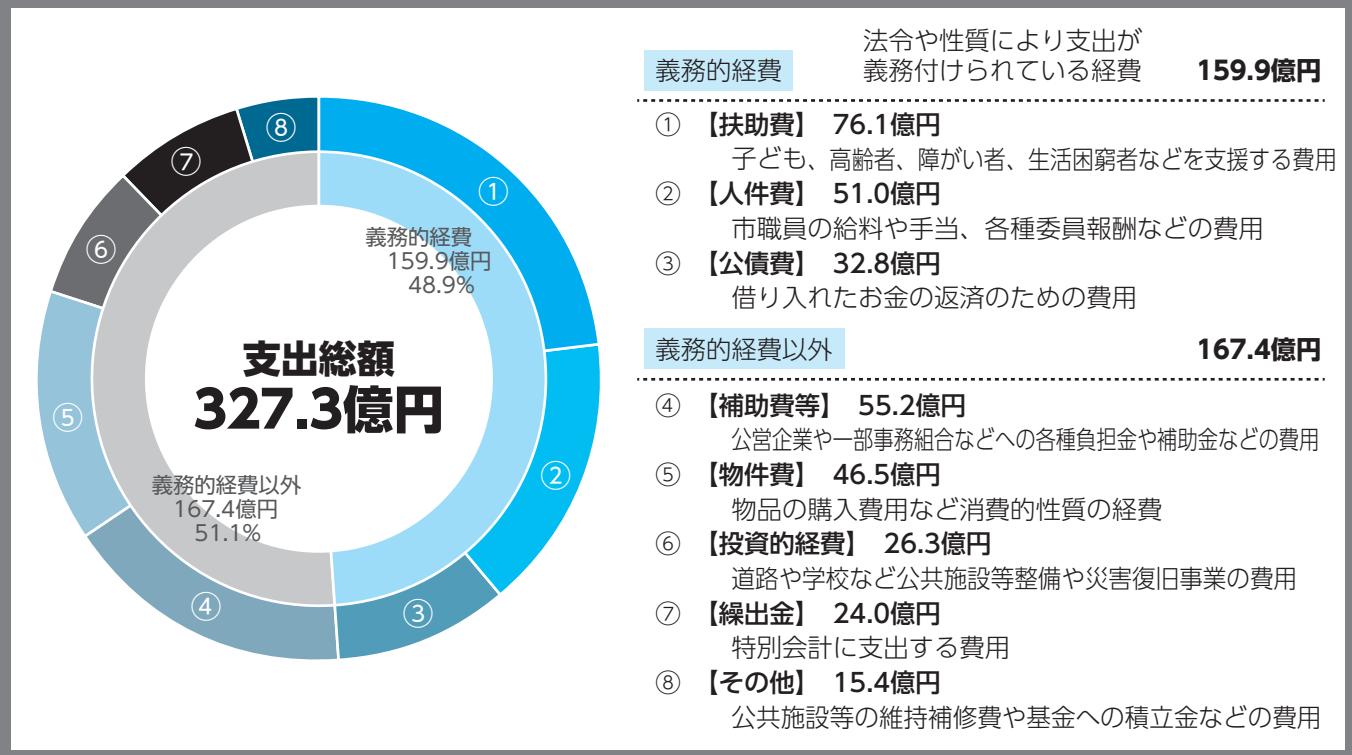
※市民1人あたりの市税収入額は、市税総額を各年度中1月1日時点の人口で割ったものです。

木津川市の支出状況

木津川市が使ったお金を「どのような経費に使ったか」、「何のために使ったか」という2つの視点で、令和5年度一般会計決算から支出の状況を紹介します。

どのような経費に使ったか 【性質別】一般会計歳出決算

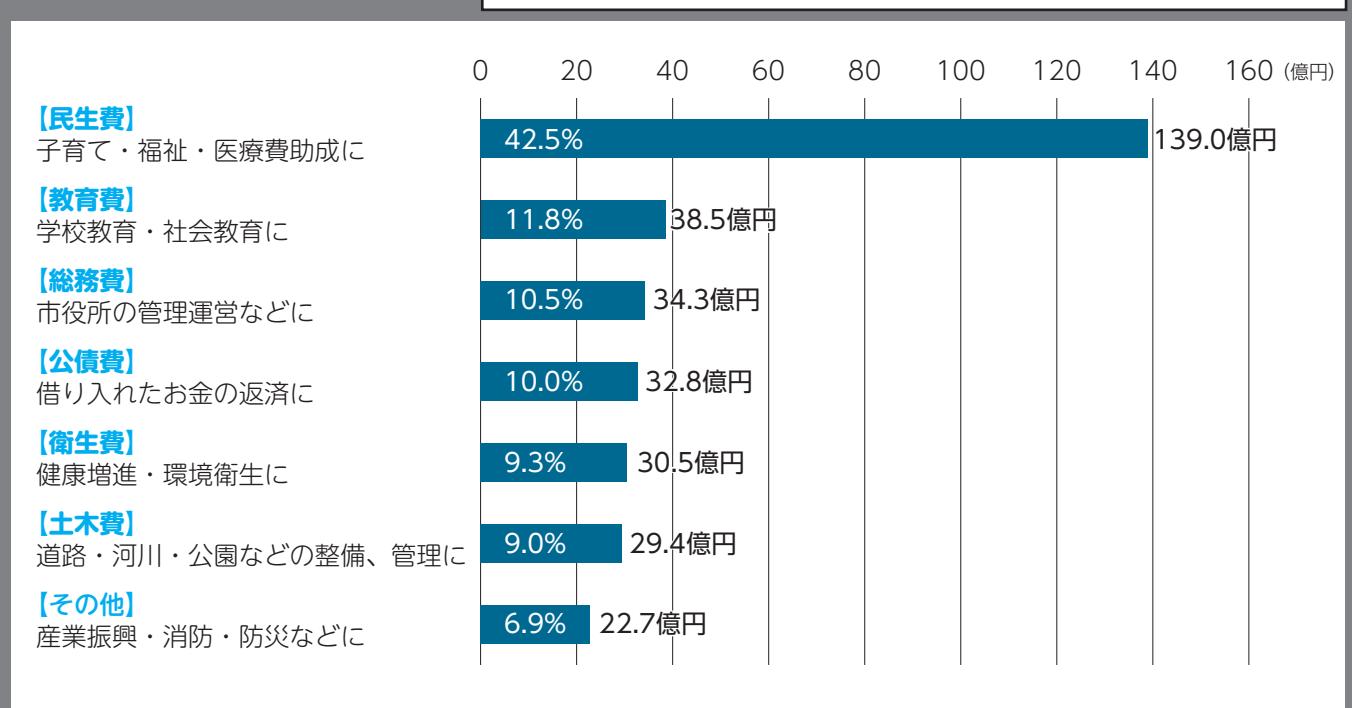
扶助費、人件費、公債費のような必ず支払わなければいけない経費（義務的経費）の割合が大きいほど、財政の硬直化が進んでいることを示します。



※【性質別】一般会計歳出決算は地方財政状況調査に基づくため、令和5年度一般会計歳出決算額とは一致しません。

何のために使ったか 【目的別】一般会計歳出決算

子育てや福祉、道路の整備、教育、健康増進など幅広い分野にお金が使われています。



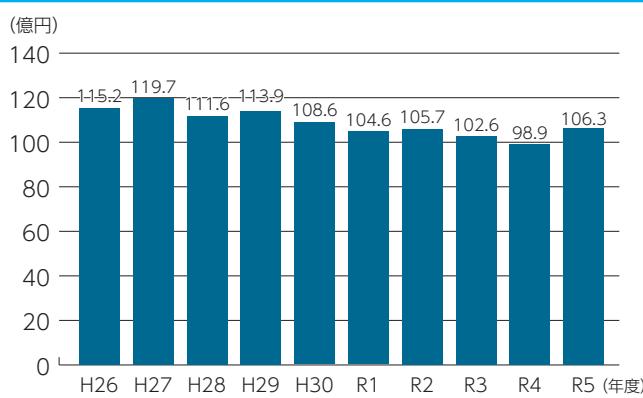
基金（＝貯金）の残高

●木津川市の貯金「基金」

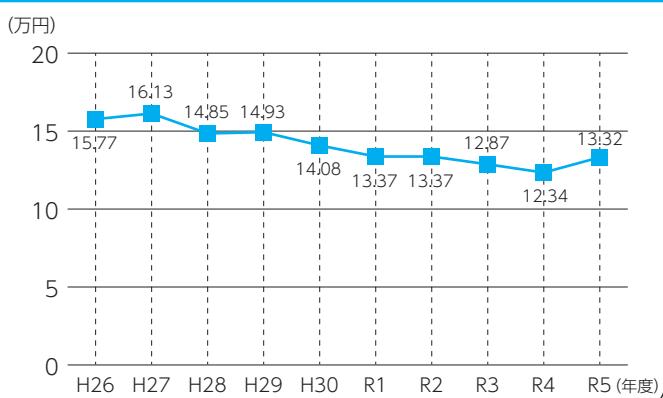
木津川市にも貯金があり、「基金」と呼んでいます。基金はそれぞれ目的が決まっており、その目的のために積み立てたり、取り崩したりしています。

木津川市の基金には、公共施設などの整備の円滑化と促進を図るための「公共施設等整備基金」、ごみ減量と再資源化を進め、次世代に豊かな自然環境を継承する事業の推進を図るための「循環型社会推進基金」、学研木津北地区の里地里山保全事業を円滑かつ効率的に行うための「学研木津北地区里地里山保全基金」、令和4年度に過疎地域に指定された加茂地域の持続的発展特別事業に要する経費の財源を確保するための「過疎地域持続的発展基金」、年度内の財源調整のための「財政調整基金」などがあります。

基金現在高



市民1人あたりの基金現在高

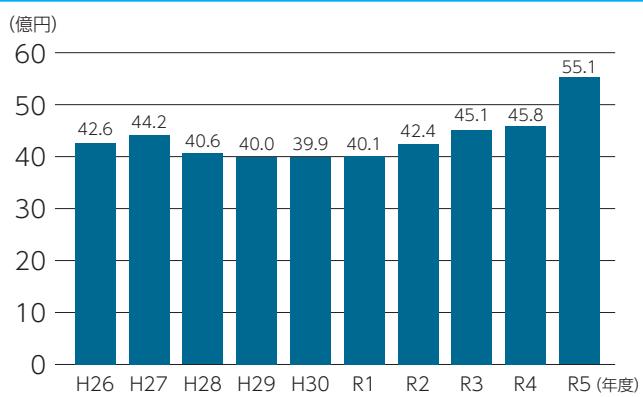


※一般会計に属する基金の残高です。

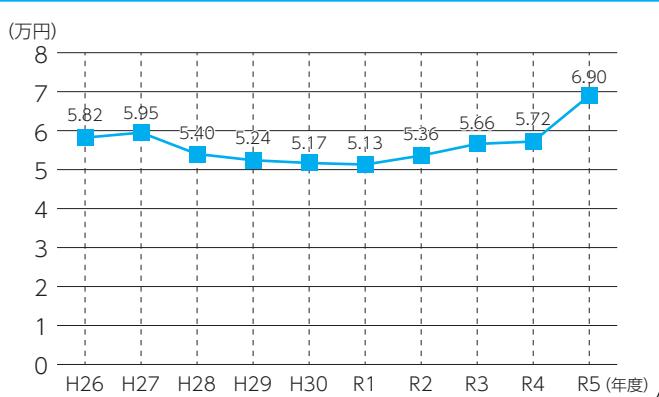
市民1人あたりの基金現在高は、基金総額を各年度中1月1日時点の人口で割ったものです。

令和5年度では、相楽中部消防組合新庁舎建設にかかる負担金に「公共施設等整備基金」を活用するとともに、環境の森センター・きづがわを建設した際の借入金を返済するために「清掃センター建設整備基金」を計画的に活用しましたが、「財政調整基金」に令和4年度の決算剰余金や京都府住宅新築資金等貸付事業管理組合返還金などを積み立てたことにより、年度末残高が増加しました。

財政調整基金現在高



市民1人あたりの財政調整基金現在高



※市民1人あたりの財政調整基金現在高は、現在高を各年度中1月1日時点の人口で割ったものです。

「財政調整基金」は、年度ごとの収支のバランスを調整するために取り崩したり、予期せぬ収入の減少や、頻発する自然災害などの思わぬ支出の増加に備えて前年度決算剰余金などを積み立てた結果、合併後最大の現在高となりました。

市債（＝借金）の残高

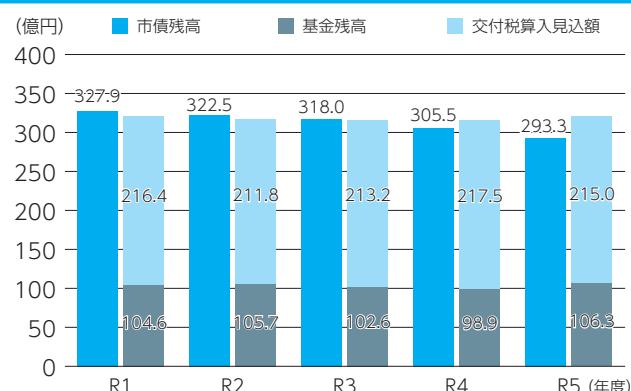
●木津川市の借金「市債」

道路の整備や学校などの公共施設を建設するときには、「市債」と呼ばれる借金をしています。借りたお金は整備したものへの耐用年数を考慮し、返済していきます。

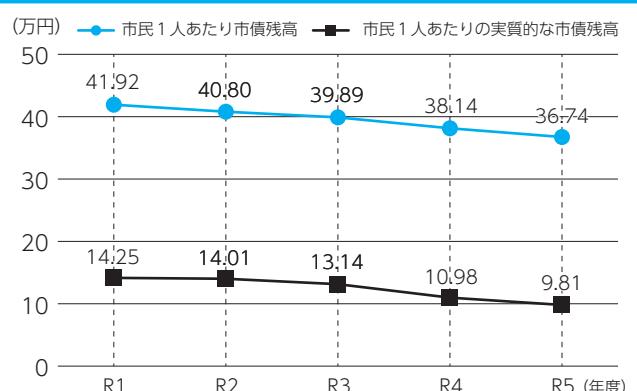
なお、学校の建設や道路の整備など国が進める事業を行うための市債には、返済費用の一部を国が地方交付税で負担してくれるものもあります。この制度を使えば、実質的に木津川市にとっては返済にかかる負担が減ることになります。

令和5年度決算における一般会計の市債残高約293.3億円に対する実質的な借金は、市債残高から交付税算入額を差し引いた約78.3億円となります。

市債残高・基金残高・交付税算入見込額



市民1人あたりの市債残高



※一般会計における市債残高、基金残高、交付税算入見込額です。

市民1人あたり市債残高は、残高を各年度中1月1日時点の人口で割ったものです。

令和5年度は、小川内水対策や小学校の改築などのため、19億円以上の市債を発行しましたが、31億円以上の返済を行ったため、市債残高は減っています。

●借金をする理由

公共施設などの建設にはたくさんのお金がかかりますが、その年度だけで支払ってしまうと他の行政サービスが十分にできなくなってしまうおそれがあります。また、施設は長期間にわたり使いますので、市債を活用して負担を平準化することで、今住んでいる市民だけでなく、将来施設を利用する市民も含めて負担を平等にしています。

○市債を使わないで事業を行うと…

市民負担

現在の市民が建設費用を全額負担。
将来の市民は負担なし。



現在の市民



将来の市民

○市債を使うと…

将来の市民負担

将来の市民も平等に建設費用を負担。

市民負担

市民負担

市民負担

市民負担



現在の市民



将来の市民

健全化判断比率の状況

●財政の健全度を示す健全化判断比率

地方自治体の財政破綻を未然に防ぐために、財政の健全度を客観的に判断する指標として、健全化判断比率の公表が法律で義務付けられています。

木津川市では、「実質赤字比率」、「連結実質赤字比率」、「実質公債費比率」、「将来負担比率」といった4つの健全化判断比率の指標において国が定める基準を下回っており、健全な財政を維持しています。

ここでは、「実質公債費比率」と「将来負担比率」の状況と、第4次木津川市行財政改革行動計画に定められている将来（令和10年度）の目標値を紹介します。

実質公債費比率 借金は多すぎないか？

令和5年度（3か年平均）：9.8%

令和10年度目標値：9.0%未満

○年収（市税、各種譲与税、交付金など）に対して、1年間で借金の返済額（公債費）がどの程度なのかを示す指標で、数値が大きいほど、借金に依存して家計をやりくりしている度合いが高く、小さいほど低いことになります。

○国が定める早期健全化基準（25.0%）を大きく下回っており、引き続き計画的な借り入れを行うことが重要です。

家計に例えると

実質公債費
比率

年間の
借金返済額

=
年収

将来負担比率 将来世代に過度な負担を押し付けていないか？

令和5年度：▲3.7%

令和10年度目標値：0%未満

○年収（市税、各種譲与税、交付金など）に対して、借金の残高（市債残高）や将来に支払いが約束された債務（公債費に準じる債務負担行為）がどの程度なのか実質的な将来の負担を示す指標で、数値が大きいほど将来、家計を圧迫することが懸念されます。マイナスの場合は、将来支払う額よりも、現在の貯金が多いことを示しています。

○国が定める早期健全化基準（350.0%）を大きく下回っており、今後も健全性を維持していくことが重要です。

家計に例えると

将来負担
比率

ローンやカード等
の返済予定総額

=
年収

●健全化判断比率の推移

区分	国が定める基準				
	早期健全化基準(R5)	財政再生基準(R5)			
実質赤字比率	—	—	—	—	—
連結実質赤字比率	—	—	—	—	—
実質公債費比率	9.1%	9.0%	9.3%	9.5%	9.8%
将来負担比率	30.0%	20.3%	11.2%	2.5%	—

※「—」は実質赤字額、連結実質赤字額、将来負担額がないこと（比率が0%未満）を意味しています。

その他の財政指標

地方公共団体の財政状況をあらわす指標のうち、ここでは、「経常収支比率」、「実質収支比率」、「財政調整基金残高比率」、「財政力指数」の状況と、第4次木津川市行財政改革行動計画に定められている将来（令和10年度）の目標値を紹介します。

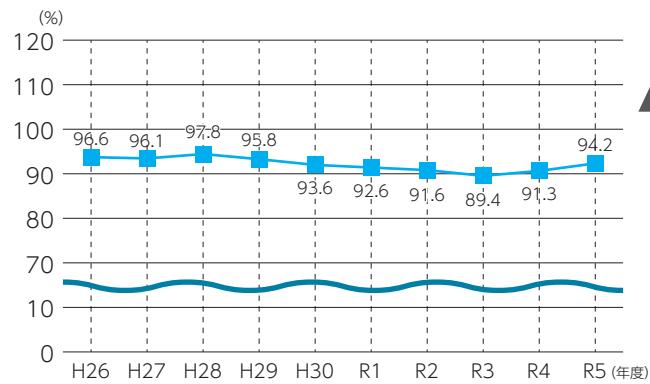
経常収支比率

財政構造の弾力性（ゆとり）はあるか？

令和5年度：94.2%

令和10年度目標値：90%未満

○給与（市税、各種譲与税、交付金など）など経常的な収入が、食費（人件費）や医療費（扶助費）、光熱水費・家賃・日用品費（物件費）、ローンの返済（公債費）など生活するうえで欠かせない経費に対して、どのくらいの割合が充てられているのかを示したもので、割合が高いほど、生活に余裕がなく、借钱や貯金を取り崩したり、節約しながら趣味やレジャーなどを楽しむ（新たな市民サービスの提供）、家の改築等（普通建設事業費）のために家計をやりくりしている状態にあるといえます。



高いほど弾力性がない

家計に例えると

経常収支
比率

食費や家賃など
生活の中で必ずかかる費用
= 給与などの収入

○令和5年度では、給与など経常的な収入が減となつたことに加え、食費など生活するうえで欠かせない支出が増となつたことで、2年連続して悪化しました。引き続き収入を増やす努力や生活費を節約していくことが必要です。

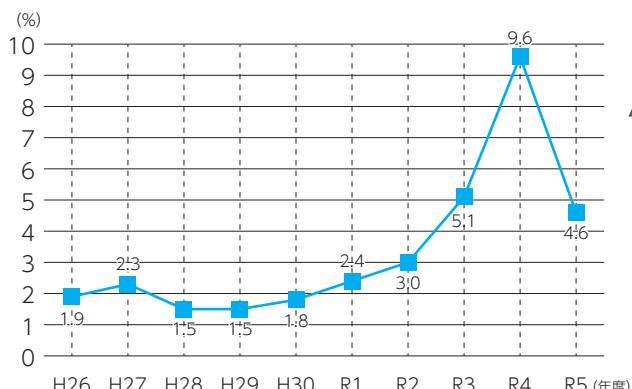
実質収支比率

収支は適正な規模にあるか？

令和5年度：4.6%

令和10年度目標値：3.0%

○今年度の収入合計から支出合計を引き（形式収支）、来年度に使わなければならぬ必要経費（翌年度に繰越すべき財源）を更に引いた額（実質収支額）が、地方自治体が標準的な状態で、通常収入が見込まれる一般財源の規模（標準財政規模）に対してどのくらいの割合なのかを示したもので、3%～5%が望ましいとされています。これは、民間企業のように黒字が多いほど良いというものではなく、営利目的ではない地方公共団体においては、適正規模とすることが必要です。



高いほど黒字が出ている

家計に例えると

実質収支
比率

家計の収支額
(実質収支額)

= 每年安定して得ること
ができる収入の規模
(標準財政規模)

○令和5年度は、実質収支が黒字で、割合も望ましいとされる範囲に収まっており、引き続き適正規模での財政運営が必要です。

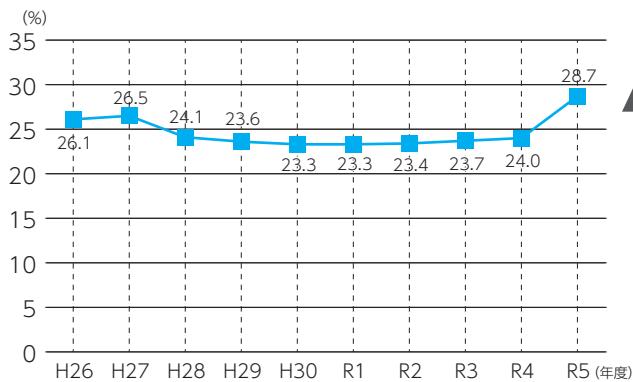
財政調整基金残高比率

不測の事態への備えは十分か？

令和5年度：28.7%

令和10年度目標値：20.0%

○使途を定めず今後のために蓄えた貯金（財政調整基金）の残高が、地方自治体が標準的な状態で、通常収入が見込まれる一般財源の規模（標準財政規模）に対してどのくらいの割合なのかを示したもので、家計をやりくりしたり（財源調整）、急変した場合（災害等の不測の事態）に備え、一定規模の割合を確保しています。



高いほど備えがある

家計に例えると

財政調整基金
残高比率

$$\text{貯金残高} = \frac{\text{毎年安定して得ること
ができる収入の規模
(標準財政規模)}}{\text{財政調整基金
残高比率}}$$

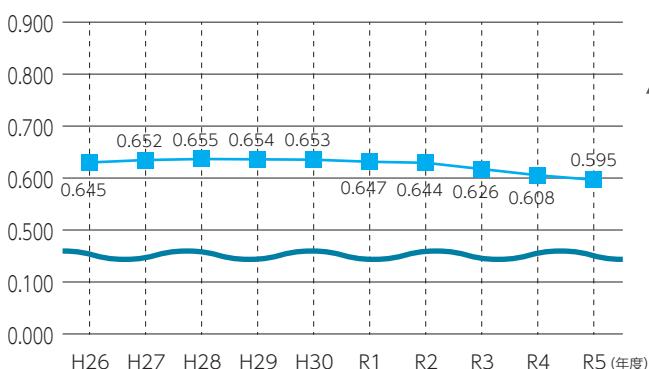
○令和5年度では、前年度の剩余金が大きく、その一部を積み立て、取り崩しを行わなかったことで残高が増加し、割合が高くなっています。

財政力指数

自分の収入で生活がどれだけ賄われているか？

令和5年度（3か年平均）：0.595

○標準的な家庭で生活（標準的な行政サービス）を営むために必要なお金（基準財政需要額）を、給与など自分の収入（基準財政収入額）でどれくらい賄えているかを示したもので、数値が大きいほど家計に余裕があるとされ、1を下回るとお金が不足している状態として、親からの仕送り（普通交付税）に頼ることになります。



高いほど財政力が強い

家計に例えると

財政力
指数

$$\text{給与などの収入} = \frac{\text{標準的な生活に
必要な費用}}{\text{財政力
指数}}$$

○年々標準的な行政サービスに必要なお金が増加しており、自分の収入だけではこれを賄えていない状態が続いています。

令和5年度の主な事業



令和5年度の
主な事務、事業
を紹介します。

©木津川市

令和5年度は、前年度に引き続き「第2次木津川市総合計画」に基づき、子育て支援、ICT教育の推進、待機児童対策、妊娠婦健康診査など重点的に取り組んだことに加えて、施設老朽化への対応、内水対策の推進、教育環境の整備にかかる取り組み等を行いました。

また、原油価格・物価高騰対策として市民や事業者の方々への支援にも取り組みました。

それでは、第2次木津川市総合計画に掲げる7つの基本方針に沿って紹介します。

基本方針1 ともに「学び」「喜び」「成長し」 未来を生きる子どもを育むまちづくり



待機児童対策・医療的ケア児支援 5億3,776万円

待機児童対策や増員する支援の必要な児童を受け入れるため、保育士の増員を行いました。

また、医療的ケア児の受け入れを行うためのガイドラインを策定し、保育士と看護師を配置することで、医療的ケアを安定的に実施できる体制を整えました。

出産・子育て応援交付金

5,569万円

全ての妊娠・子育て世帯が安心して出産・子育てができる環境を整備するため、妊娠期から出産・子育て期までに必要な支援に結び付ける伴走型相談支援と、妊娠届出後に5万円、出生届出後に新生児1人につき5万円の経済的支援を一体的に実施しました。

あそびでつながるプレイフルパーク事業

264万円

遊具を活用した遊びを通して、子どもたちの健やかな成長に寄与するとともに子どもや保護者の交流の促進を図りました。



プレイフルパークの様子

教育支援センター加茂教室開設 69万円

令和5年度から従来までの名称である適応指導教室を教育支援センターに改め、11月から加茂小学校に加茂教室を開設し、より手厚い支援を行いました。

新生児聴覚検査費用助成

166万円

新生児の聴覚障害の早期発見のため、検査費用の一部を公費負担するもので、新生児435人が事業を利用して受検しました。

木津小学校と相楽小学校の校舎改築等 4億3,659万円

校舎老朽化に伴う対策として、木津小学校では北校舎解体工事や外構整備、相楽小学校では北校舎改築工事等を行いました。



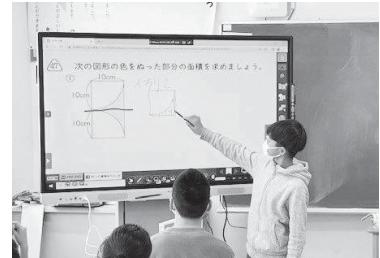
相楽小学校の
新校舎

ICT教育の推進

3億4,903万円

児童生徒一人一台端末をはじめとしたGIGAスクール・授業支援・校務関係のICT機器を整備しました。

また、子どもたちの学習への興味や関心を高める授業を効果的に実施するため、テレビ型電子黒板を各小中学校に1台（城山台小学校は2台）先行導入しました。



テレビ型電子黒板
の活用

基本 方針2 誰もが生き生きと、生涯元気で暮らせるまちづくり



新型コロナワイルスワクチン接種 2億3,063万円

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止し、市民の生命及び健康を守るため、新型コロナワイルスワクチンの集団接種及び個別接種を行いました。

子育て支援医療費助成

1,714万円

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、価格高騰の影響による家計圧迫を軽減するため、令和5年12月から対象年齢を18歳の年度末まで拡充しました。

相楽療育教室の長寿命化改修と児童発達支援センター化 6,089万円

屋上防水等修繕及び児童発達支援センター化に伴う改修工事を行いました。



相楽児童発達支援センター

市民スポーツセンター及び当尾の郷会館の照明LED化工事にかかる設計業務を行いました。

加茂文化センター舞台吊物装置の更新 2,200万円

加茂文化センターの各種吊物巻上機老朽化に伴い、取替えを行いました。

中央図書館長寿命化改修

1億3,316万円

中央図書館の施設長寿命化を図るため、屋根、防水、壁面等の改修工事を行いました。

基本方針3 一人ひとりが認め合い、力を発揮できるまちづくり



女性センター・相楽老人福祉センター照明LED化改修設計 215万円

女性センター及び相楽老人福祉センターの照明LED化工事にかかる設計業務を行いました。

木津人権センターと木津児童館の複合化改築設計 1,283万円

木津人権センター及び木津児童館を解体し、複合化施設として新築するための設計業務を行いました。

山城人権フェスタなどの人権啓発事業の開催 449万円

人権問題の解決や人権意識の高揚を図るため、山城人権フェスタの開催や、市内の各種団体、企業や市民などで組織する木津川市人権啓発協議会の活動を推進するなど、各種啓発活動を行いました。

国際交流員の招致

423万円

外国人の方に対する生活支援や相談窓口、国際交流活動などを担うため、JETプログラムを活用した国際交流員 (CIR) を前年度に引き続き任用しました。

基本方針4 人・資源・立地を活かし、未来を拓く産業のまちづくり



森林経営管理制度による人工林の調査・測量及び整備 968万円

森林経営管理制度に基づく森林所有者の意向調査や集積計画を作成しました。

また、森林経営計画が策定できない森林の整備業務として、山城町高麗地区の危険木伐採 (72本) と山城町棚倉地区の人工林の間伐 (2.46ha) を実施しました。

企業立地促進助成金

7,007万円

市内産業用地への企業立地を促進するため、企業立地促進条例に基づき、助成制度を活用して戦略的に企業誘致活動を展開するとともに、8社に対して企業立地促進事業助成金を交付しました。

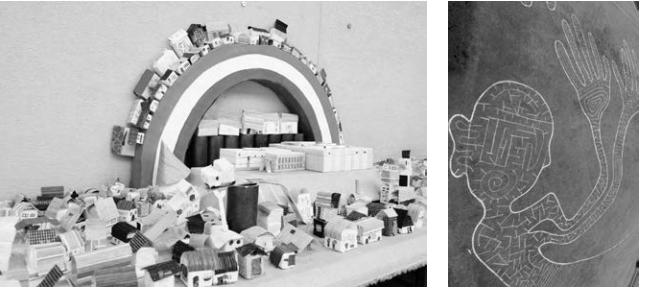
歴史文化&フードツーリズム造成事業 2,310万円

観光庁「観光コンテンツ造成支援事業」の採択を受け、歴史文化&フードツーリズム造成事業 (①海住山寺五重塔特別公開によるプレミアムディナーの開発、②僧侶の食生活体験型プログラムの開発、③地域文化密着型のプログラム開発) を実施しました。

産業競争力強化支援事業

589万円

市内商工業の振興を目的に、事業者が競争力の強化や販路の拡大に取り組む経費に対し、補助金 (認証取得・更新事業: 4件、展示会等出展事業: 11件、販路拡大事業: 10件) を交付しました。

<p>東京・奈良国立博物館観光PRブース出展 662万円</p>	<p>恭仁宮跡特別史跡昇格に向けた取組 4,081万円</p>
<p>両博物館内において木津川市の観光チラシの配架を行うとともに、奈良国立博物館では館内で観光情報PRブースの設置、特産品の販売を実施しました。</p>	<p>史跡指定地の保全を目的に、史跡指定地 6 筆、3,578m²の公有化を行いました。 また、恭仁宮跡の特別史跡昇格を目指し、保存活用計画の策定に着手するとともに、来訪者の増加や認知度向上を図るため、恭仁京をテーマにした講演会や現地見学ツアーの開催などに取り組みました。</p>
<p>木津川アート2023の開催</p>	<p>944万円</p>
<p>市坂・梅美台・州見台地域において、木津川アート2023を令和5年11月3日（金・祝）～19日（日）の17日間実施し、延べ15,565人の来場がありました。</p> <p>木津川アート2023 出展作品</p>	
<p>基本方針5 災害などから市民を守り、安心・安全に暮らせるまちづくり</p> <p>4 市の高い教育をみんなに 7 まちなかをみんなに 10 人やまの不審をさぐりこむ 11 まちあけられるまちづくり 13 まちを育むにまつわるまちづくり 16 まちとひとを育むまちづくり 17 パートナーシップでまちを育む</p>	
<p>農道橋りょうの補修 3,476万円</p> <p>農免農道橋のうち山城町にある小渋川橋・芦原谷橋・車谷1号橋・車谷2号橋・光明仙下橋の修繕工事を実施しました。</p> <p>小渋川橋</p>	<p>防災士養成 317万円</p> <p>市民の自助、共助意識を高めるため、市民を対象に防災士養成講座を開催し、新たに46名の防災士を養成しました。(令和5年度末までに養成した防災士：192名)</p> <p>防災士の資格を有する方で協力いただける方には、木津川市地域防災リーダーとして、各地域の自主防災組織等の中核として地域防災力の向上のけん引役を担っていただきます。</p> <p>講座の様子</p>
<p>ため池の劣化状況調査及び改修工事 580万円</p> <p>市内のため池にかかる定期的な点検調査業務及び新たに登録したため池の劣化状況調査を実施しました。 また、京都府が実施する府営農村地域防災減災事業（梅谷地区）に対する負担金を支出しました。</p>	<p>通学路安全対策 1,614万円</p> <p>城山台地域から木津南中学校への推奨通学路となる市道木337号木津南北線の歩道拡幅を進めました。 また、恭仁小学校通学路のグリーンライン施工工事、加茂小学校通学路の横断歩道のカラーリング工事及び上狛小学校通学路道路表示再施工を行いました。</p> <p>横断歩道カラーリング工事後</p>

小川内水対策

8億8,994万円

過去に浸水被害が発生している小川・反田川流域市街地の被害軽減を目的とした内水排除施設の整備に向けて、詳細設計業務や用地取得、工事ヤードの土地使用契約、機械器具の購入、工事を実施しました。



小川内水排除施設の工事風景

旧加茂体育館等の解体による周辺安全確保

8,321万円

新耐震基準以前の建物である旧加茂体育館、旧加茂図書館、社会体育倉庫の解体工事を行いました。



旧加茂体育館等跡地

防災・災害情報発信手段の多重化

121万円

防災・災害情報伝達手段の多重化を図るため、気象警報や武力攻撃などの国民保護情報を市防災情報メールとの自動連係により市公式LINEアカウントからも配信しました。

また、スマートフォンや携帯電話をお持ちでない方、メール機能を利用してない方のため、市防災情報メールで配信した内容をファックス・電話で配信しました。

基本方針6

快適で住みよい生活環境と、豊かな自然に恵まれたまちづくり



脱炭素社会・循環型社会に向けた取組の推進

2,295万円

更なるごみの減量や再資源化施策を実施するため、循環型社会推進基金を活用し、広報折込用チラシ「MOTTAINAI便り」の発行や古紙集団回収事業に対する補助、市民提案型ごみ減量活動等に対する補助などを行いました。

また、地球温暖化対策のための国民運動であるデコ活を実施し、市民や事業者等と連携して持続可能な脱炭素社会づくりに向けた取り組みとして、商業施設における環境イベント「エコフェスきづがわ」の開催や、小中学校向け出前授業（14校、延べ138クラス）などを実施しました。



エコフェスきづがわの様子



MOTTAINAI便り

広域道路「城陽井手木津川バイパス」の整備促進と官民連携によるにぎわい拠点整備検討 5,490万円	地域公共交通の活性化と利用促進・地域公共交通計画の作成 1,386万円
<p>令和2年度から開始した城陽井手木津川バイパス事業に関する地籍調査業務（平尾・神童子地区後期工程、椿井・上狹地区前期工程）を実施しました。</p> <p>また、城陽井手木津川バイパス沿線のまちづくり構想のうち、官民連携による「にぎわい拠点整備検討業務」の基本構想を令和5年9月に策定しました。</p>	<p>市民にとって使いやすく満足度の高い地域公共交通とするため、木津川市地域公共交通総合連携協議会において、木津川市地域公共交通計画を策定しました。</p> <p>また、公共交通の利用促進等を目的に「公共交通だより」を発行、市内コミュニティバスの時刻表を作成し配布しました。</p>
市営住宅清水団地の建替 8,163万円	木津川台駅前線の整備 1億267万円
<p>第2次木津川市営住宅ストック総合活用（長寿命化）計画に基づき、清水団地1棟2戸の建替工事を行いました。</p>	<p>設計・積算業務や工事ヤードの土地使用契約、関電・NTTなどの支障物件の移設、橋脚3基の設置工事を実施しました。</p>

基本方針 7 効果的・効率的な行政運営と市民に開かれたまちづくり



第2次総合計画後期基本計画とデジタル田園都市構想総合戦略の策定 1,913万円	市窓口でのDX(デジタル・トランسفォーメーション)の推進 592万円
<p>令和6年度から10年度までの5年間のまちづくりを進めることを目的として「第2次木津川市総合計画後期基本計画」を策定しました。</p> <p>また、国の掲げるデジタル田園都市国家構想に基づき、第2期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間を1年前倒しし、第3期総合戦略として「木津川市デジタル田園都市構想総合戦略」を策定しました。</p>	<p>令和5年2月に開始された引越しワンストップサービスに対応するため、書かない窓口対応システムを改修することで、手続きの利便性向上を図りました（令和5年度受付件数：654件）。</p> <p>紙媒体で閲覧に供していた道路台帳を電子データで閲覧するため、データ整備とともに、システム及び閲覧用端末を導入しました。</p>
自治体標準システムへの移行準備 2,513万円	ふるさと納税の取組強化などふるさと応援の促進 5,189万円
<p>地方行政のデジタル化を推進するため、住民記録など20の基幹業務システムを国の示す標準仕様に適合したシステムへと移行することで、行政運営の効率化を図るもので。</p> <p>令和5年度ではデータの抽出・移行機能開発、Fit & Gap分析等を行いました。</p>	<p>本市の特産品などを全国にPRし、市の魅力を発信することで財政拡大につながりました。地域経済の更なる活性化を図るため、新たな返礼品の発掘、商品開発、ポータルサイトや検索連動型広告の活用など、取り組みを強化しました。</p> <p>令和5年度は前年度を上回る1億2,379万円のご寄附をいただきました。</p>

物価高騰等の影響を受けた市民や事業者に対する支援（主なもの）

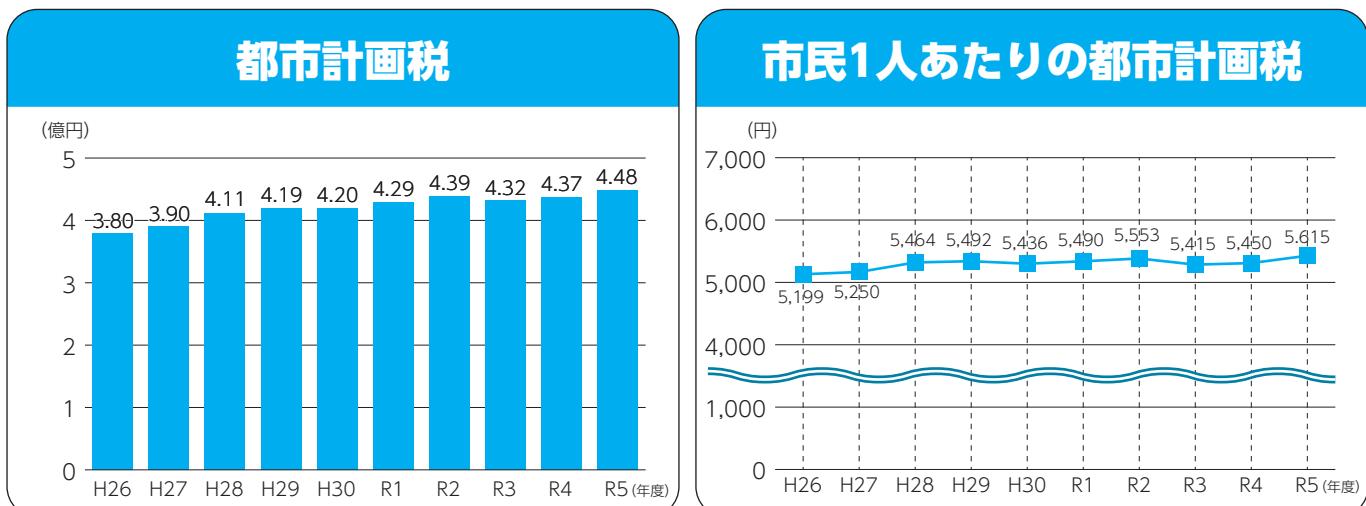
学校給食費物価高騰対策・民間園への物価高騰対策 5,348万円	子育て世帯生活支援特別給付金 1億1,076万円
<p>新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金及び子どもの給食臨時支援事業府補助金を活用し、令和5年度の給食費に対して学校給食費物価高騰対応補助金を交付しました。</p> <p>また、食材費などの物価高騰に対する支援として民間園への補助を行いました。</p>	<p>物価高騰への緊急対策として、児童扶養手当受給世帯等（低所得のひとり親世帯）に対し、児童1人あたり5万円を給付しました。</p> <p>また、住民税均等割が非課税等の子育て世帯（ひとり親世帯以外の低所得の子育て世帯）に対し、児童1人あたり5万円を給付しました。</p>
公共交通確保維持支援金 880万円	就学援助費 9,392万円
<p>新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、バス及びタクシー事業者に対し、持続可能な公共交通の維持を目的に公共交通確保維持支援金を給付しました。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、児童生徒に平等な教育の機会を与えることを目的に援助を行いました。</p>
木津川市生産者省エネ設備等導入支援 1,621万円	キャッシュレスサービスを活用した地域経済活性化 1億2,210万円
<p>新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、コロナ禍及び生産資材、燃料等の価格高騰の影響による厳しい経営状況を改善するため、農作業の省力化、生産コストの削減等に取り組む生産者に対し補助金を交付しました。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、令和5年10月1日（日）～11月13日（月）の間、市内の対象店舗でキャッシュレス決済を利用して買い物をした方にポイントを付与する事業を実施しました。</p>
木津川市米生産者応援給付金 368万円	路線バス事業者運行費高騰対策一時支援金 3,089万円
<p>物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、農業用資材等の物価高騰による影響に加え、猛暑による農作物被害の影響により経営状況が極めて厳しい状況にある米生産者（240人）に対し、経営の維持及び次期作の支援を図るため、木津川市米生産者応援給付金を給付しました。</p>	<p>物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、運行費高騰の影響が著しい路線バス事業者に路線バス事業者運行費高騰対策一時支援金を給付しました。</p>
エネルギー・食料品等価格高騰重点支援給付金 6億5,836万円	 <p>©木津川市</p>
<p>新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金及び物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、特に家計への影響が大きい低所得世帯に対し、速やかに生活や暮らしの支援を行う観点から給付金を給付しました。</p>	

都市計画税に関する事業

●都市計画税

都市計画税は、市街化区域内に土地や建物を所有される方に課税される税金です。これは、市街化区域内で行われる道路や下水道のインフラ整備などに必要な費用を賄う目的で課税されます。

税率の上限は0.3%ですが、木津川市では0.15%としています。



※市民1人あたりの都市計画税は、税額を各年度中1月1日時点の人口で割ったものです。

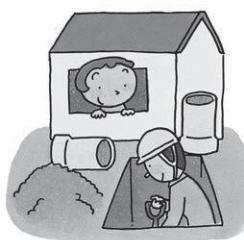
●実施している都市計画事業

市民の皆さんから納めていただいた都市計画税4億4,824万円は、一般財源6億7,534万円に含め、山手幹線や下水道の整備に活用するとともに、都市計画事業のために借りた借金の返済に活用しています。

今後の都市計画事業については、都市計画マスターplanを基本として実施していきます。

事業の内訳		歳出額
山手幹線整備事業		74
公共下水道事業会計負担金		48,730
公共下水道事業会計出資金		4,744
都市計画事業に充当した市債の償還金		14,046
歳出合計		67,594

財源の内訳		歳入額
市債		60
一般財源		67,534
うち都市計画税		44,824
歳入合計		67,594



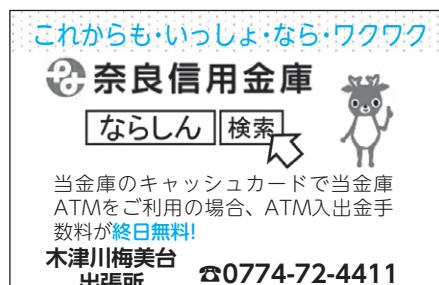
下水道の整備（5億3,474万円）



山手幹線の整備（74万円）



借金の返済（1億4,046万円）

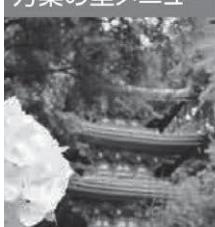


木津川市ふるさと寄附金

ふるさと納税などを通じてご支援いただいた皆さんへの温かい思いにお応えをして、希望されたメニューに大切に活用させていただきました。また、令和5年度では、1億2,379万円のご寄附をいただきました。ご支援ありがとうございました。

活用希望メニュー

万葉の里メニュー



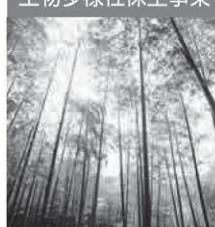
国宝や重要文化財などの修理、修復など文化財保全などに活用します。

こども夢・未来事業



中学生海外派遣事業、ICT教育の推進などに活用します。

生物多様性保全事業



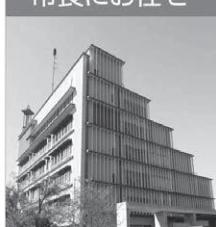
学研木津北地区での里山保全活動などに活用します。

観光振興事業



木津川アートや市民まつり等のイベントなどに活用します。

市長にお任せ



市民の皆さんのがいきいきと暮らせるまちづくりのために必要な事業に活用します。

令和5年度 ふるさと応援基金の活用実績

これまでにいただいた寄附金から必要経費を差し引いた額を基金に積立て、翌年度以降に活用しています。

観光振興事業

当尾地区観光散策道整備計画作成・測量事業 53.4万円

加茂町当尾地区への観光客の誘致促進と安全性を確保するため、散策道や石仏周辺の危険木伐採と放置竹林整備を行うための調査を行いました。

当尾石仏の道危険木除去事業 20万円

岩船寺や浄瑠璃寺等を経由する当尾石仏めぐりコースにおいて、倒木の危険性のある樹木を伐採しました。

森林公園給水施設修繕事業 30万円

山城町森林公園の水道施設において、安定した浄水処理を確保するため、ろ過施設のろ過材を交換しました。

木津川市市民まつり2023開催事業

400万円

市内で活動する25団体の協力による夏祭り実行委員会を組織し、市民の手による市民みんなが楽しめる木津川市市民まつり2023を開催しました。



市民まつりの花火

こども夢・未来事業

山城中学校楽器更新事業 150万円	木津川市国際交流協会補助事業 150万円
山城中学校の楽器は長年使用したことから状態が悪く、買い替える必要があったため、教材用備品としてティンパニ等の楽器を購入しました。	木津川市の未来を担う中学生を広い視野と国際感覚を備えた人材として育成することを目的として、木津川市国際交流協会による、友好都市サンタモニカ市への中学生派遣事業に対する補助を行いました。
木津川市特色ある学校づくり推進事業 100万円	 市立小中学校からの事業提案を受け、学校、児童、生徒及び地域実態などの特性を活かした特色ある教育活動を推進しています。 令和5年度は15の事業を実施し、教育活動の一層の充実を図りました。 災害の体験を学ぶ授業



サンタモニカ市への出発式の様子

生物多様性保全事業

学研木津北地区保全推進事業 85万円
学研木津北地区の里地里山保全を目指す生物多様性木津川市地域連携保全活動計画を保全活動団体との協働により推進するため、補助を行いました。 木津北地区の竹林伐採



万葉の里メニュー

指定等文化財保全費補助事業 100万円
淨瑠璃寺国宝木造四天王像のうち2軀及び重要文化財木造地蔵菩薩立像の修理並びに特別名勝・史跡淨瑠璃寺庭園内の旧家の修理に対する補助を行いました。 淨瑠璃寺四天王像（增長天像）



令和5年度 企業版ふるさと納税による寄附金の活用

企業版ふるさと納税とは、「地域再生計画」に基づき実施する事業に対して、企業の皆さんからご寄附をいただくものです。

令和5年度は、2,080万円のご寄附をいただき、次の事業の財源として有効に活用しました。

○あそびでつながるプレイフルパークの開催（9ページ掲載）	活用額 200万円
○歴史文化＆フードツーリズム造成事業	活用額 1,120万円
○木津川アート2023開催	活用額 290万円
○木津川市市民まつり2023開催	活用額 160万円
○木津北地区保全事業	活用額 300万円
○木津川市放課後子ども教室	活用額 10万円



©木津川市

木津川市の家計簿



©木津川市

木津川市の1年間の
収入と支出を一般家庭の家計簿に例えて紹介します。
令和5年度の一般会計決算額を市民ひとりあたりにすると、
約41万円のお金を使ったことになります。
わが家では、給与が約27万円で、支出は約41万円でした。
そこで、親から約11万円の仕送りを受けて、さらにローン
約2万円を借り入れましたが、まだ不足する約3万円は
貯金を引き出して、やりくりしました。

市民1人あたりの収入 (歳入)	令和5年度	令和4年度
給与 (市税、各種譲与税、交付金など)	267,101	266,528
親からの仕送り (国庫・府支出金など)	108,567	122,156
ローンの借入 (市債)	24,263	23,816
貯金からの引出し (繰入金・繰越金)	29,132	35,828
合 計	429,063	448,328

令和6年1月1日現在の木津川市全人口	79,828人
令和5年1月1日現在の木津川市全人口	80,109人

収支のバランスを見て、
私たちの住むまちを
良くするために、
必要なことにお金を使う
ことが大事です。



©木津川市

市民1人あたりの支出 (歳出)	令和5年度	令和4年度
食費 (人件費)	64,008	63,045
医療費など (扶助費)	95,399	91,587
光熱水費、日用品費 (物件費)	58,221	64,411
子どもへの仕送り (繰出金)	30,073	27,937
家の修繕・増改築費 (維持補修費、普通建設事業費、災害復旧事業費)	37,961	48,101
ローンの返済 (公債費)	41,032	40,926
町内会費、サークル活動など (補助費等)	69,123	74,632
貯金・投資 (積立金、投資及び出資金)	14,240	12,790
合 計	410,057	423,429

※金額は、令和5年度と令和4年度の決算額を各年度
中1月1日時点の人口で割ったものです。

令和5年度木津川市決算のあらまし

発 行 令和6年12月 木津川市役所総務部財政課
電話番号 0774-72-0501(代表)
0774-75-1202(直通)
E-mail zaisei@city.kizugawa.lg.jp

ぐ~るぐる♪ テレビCM放送中♪

大栄環境グループ
21 DINs 三重中央開発株式会社
京都リサイクルセンター TEL 0774-76-6623
〒619-1132 京都府木津川市加茂町大畑背谷38番地1

こどもロボットプログラミング教室

NK 日本機材株式会社 × プログラボ木津川ロボットセンター

産業用ロボットを扱う会社の中でプログラミングを学びませんか？
城山台2丁目2-1

MAIL proglab_krc@nihonkizai.co.jp
TEL 050-3852-2333 (受付時間/平日9:00-17:30)

QRコード
無料体験会のお申込はコチラ